

シグマ研究委員会核データ専門部会F P核データワーキンググループ会合議事録

日 時： 平成3年12月20日（金） 10:30～17:00

場 所： 日本原子力研究所 東海研究所 研究2棟222室

出席者： 中川、中島、杉（原研）、瑞慶覧（日立）、松延（住友原工）
渡部（川重）、川合（東芝）
千葉（原研； オブザーバー）

配布資料 前回議事録（11/22）

FPND-91-19 Dr.Dietzeから松延氏宛書簡(12/2)

FPND-91-20 1992年原子力学会予稿「F P核種非弾性散乱断面積の問題」

FPND-91-21 川合からDr.Gruppelaar宛ファクシミリ(12/10)

FPND-91-22 STEKの ρ/ρ_0 に対する散乱、非弾性散乱の寄与

FPND-91-23 NEA SG10向け作業（Pdの非弾性散乱断面積、Mo,Ndの変形
パラメータとOMP） （千葉）

議 事

1. 前回（11/22）議事録の確認

2. 一般報告

・ Dr.Dietzeから松延氏宛の書簡（配布資料FPND-91-19）が松延委員から紹介された。Dresdenの研究所の組織改革の渦中であり、新規に実験解析をやってられない状況のようである。また、平成4年5月25～27日のF P核データの専門家会議出席については、新しい研究所長宛にDr.Dietzeを招待する旨の手紙がほしいとのことである。

・ 平成4年の原子力学会年会に対してF Pの非弾性散乱断面積の問題についての発表申込の提案（予稿案：FPND-91-20）が川合委員からあり、了承された。

3. F P 非弾性散乱断面積の国際協力評価作業 NEANSC-SG10への対応作業報告

・ 前回のWG会合(11/22)の結果に基づいてサブグループのスコープを固めてモニター役のDr.Gruppelaar およびサブグループメンバー予定者にファクシミリまたは手紙（FPND-91-21）をおくった旨報告が川合委員からあった。

・ 配布資料FPND-91-22に基づいてSTEKのsample worthに対する非弾性散

乱断面積の寄与についての計算について渡部委員から報告があった。内容は、Zr、Mo、Pd、Te、Ce、Ndの各アイソトープのworthについてであり、非弾性散乱の重要性が数値として示された。しかし、散乱反応については、酸化物試料での酸素や他のアイソトープの寄与もあり、データのまとめ方に煩雑な部分もあり、表がもう少し大きくなってもよいから、それらが一覧できるように、フォーマットを瑞慶覧委員と再度まとめてもらうこととした。

- ・ 非弾性散乱断面積、計算パラメータの調査結果 (FPND-91-23) が千葉氏から報告された。また、千葉氏が別に進めている核融合炉用ファイルの整備と重複する核 (構造材核種) の扱い方についての疑問が出されたが、対象エネルギー域と反応が違い、双方が補い合う形でまとめれば良いということで合意した。当WGでは低エネルギー側のデータの評価を分担する。

- ・ 非弾性散乱断面積の作図のため、測定値のレベル毎の仕分けが必要であり、中川委員は、それに必要なEXFORのリストを関係者に配布することにした。

4. 積分テスト結果の検討の集中作業

11月21日の共鳴と積分テスト (サブ) グループ共同による検討に引き続いて、CsからTbまでの重い核の積分テストの結果を断面積プロット図と見比べながら検討した。前回の作業分を含めて検討結果を表にまとめて、次回提出することで合意した。

5. その他

| | | |
|-----|----|--|
| 次回： | 日時 | 1月24日 (金) 9:10~17:30 |
| | 場所 | 原研東海研究所 |
| | 議題 | 作業進捗状況の報告 集中作業 (非弾性散乱断面積のプロット、データ調査など 積分テスト) |

以上